

ハーブティ

2008. 3
Vol. 19

ひと ひと
～女と男をかんがえる～

ハーブティ:「ハーブ (herb)」は香草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使い、これが心と体にもよいバランスのとれた刺激を与えることから、女と男がバランスのとれた関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークが広がれば…という願いがこめられています。



自分らしさを大切にしている、 さまざまな世代の方々4人に会いました!!

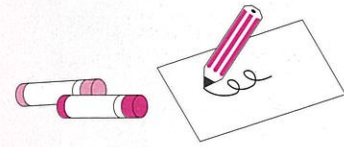
武田 桃子さん 塩澤 宏信さん 白岡で絵画教室を運営



<仕事はいつも一緒>

週3回、絵画教室で子どもたちを教えている。それ以外の日は、教室の準備や自分たちの作品の制作に時間を使う。

いつも一緒にいることのメリットは、生活の中に仕事が入り込んでいること。二人に力関係が無く価値観が同じなので、お互いに遠慮なく話せる。一人の時間も大切にできるように、家にプライベート空間を作っている。



<子どもは芸術家!>

武田さん：子どもの作品を見て、はっとさせられることがある。子どもから『芸術の純粋さ』を学ばされる。絵画教室では、上手に絵を描くことより、「自分が楽しむために描く」事を最優先に教えている。そうすることで、楽しんで生きることの大切さを知ってほしい。

<どんな仕事も無駄なものはない>

塩澤さん：結婚を機に絵画教室の仕事をするようになり、子どもたちと接することで自分の表現の幅が少し広がったように思う。子どもの純粋な気持ちを自分にも置きたいと思っている。

<夢の過去・現在・未来>

武田さん：家族が美術一家だったこともあり、子どもの頃から絵描きになりたかった。絵画教室では、子どもの感じたことをうまく引き出し、素直に表現できるよう心がけている。ありのままの自分にもどれるきっかけづくりをしてあげたい。

勉強とは知識欲、好奇心ではないか。学校とはまた違う「勉強することの楽しさ」も教えられたらいい。

塩澤さん：子どもの頃、性格的に1人でやっていた仕事がいいと思っていた。中学生の頃から美大に行きたいと思い始めた。

お金をかけた教材よりも単純なものを使う方が、子どもたちは工夫する楽しさを感じることができる。それが、自分の楽しみにもなっている。

これからの夢は、教室を抜け出して、子どもたちやその家族と一緒に里山での遊びながらの農業体験（どろんこ田植え、カエルとりなど）をしたい。

<自分らしさとは>

武田さん：これまで、様々なかたちで作品をつくってきたが、それらの作品が本来の自分の持ち味でないと感じると、落ち着かなくなる。だから、素直な気持ちを大切にしている。

塩澤さん：力を入れ過ぎると失敗するので、長く続けていくこと（続けられること）を大切にしたいと思う。そして、迷ったら元にもどればいいのかと思う。

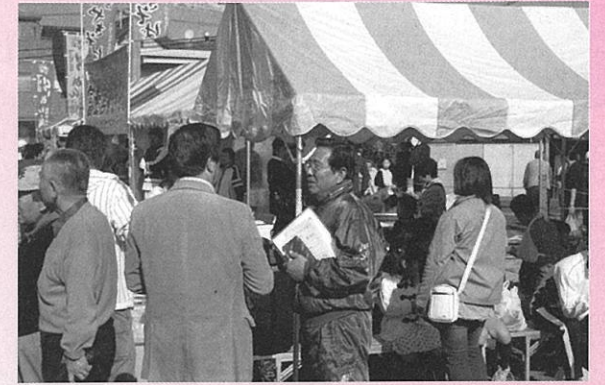


柳 祐作さん 白岡在住 石材店

我が家のカレンダーはボランティア暦

明治創業、石材店の三代目。子ども会など15団体以上に協力している。仕事の合間のボランティア活動だが、手抜きはできない。2人の息子が、小中学校に通っていた昭和57年にPTA役員を受けて以来27年。現在は長男も一緒に活動。当時は、全国組織の「子ども会」が白岡町にはなく、その立ち上げに参画し、健全な青少年のリーダーの育成に没頭した。

今後は、ボランティア活動をする男性を増やすのが課題。定年後で意欲がある方は多いので、引っ越して来た方へ声をかけるなど、こちらからのきっかけづくりが必要。



ボランティア人生

子ども会活動をとあして、今の子どもは、指示待ち人間、喜怒哀楽を出さないという先入観があったが、実際はよく考えて行動していると思う。うそはつかないことを子どもたちにもよく伝えている。子どもとの信頼関係がくずれたら、それが子ども会を辞めるとき。

育ち盛りの子供たちに、変化の大きさを感じる。今後は、特に中高生のリーダー育成にかかわってきたい。そして子どもたちが親になって、地域に帰ってきて活動してくれた時が自分のゴール。

自分たちで考え責任を持たせることが大事。危険がある時は注意するが、相談されるまでは指示はしない。とにかく、まかせる。指導者に一番必要なのは、「気長に待つ」。

ボランティア活動実施

「やる以上はとことんやるのが信条、どうせやるなら楽しいほうがいい」見返りを求めたら駄目。自分にあったボランティアをやるのが良い、苦痛やストレスになってはならない。仲間が増えることが楽しみでその存在は強い支えとなっている。

「何事も一生懸命」これぞ「柳さん流」!

関 有里子さん 小久喜在住 家具職人見習い

一歩 足を踏み入れると、ほんのり木の香り。師走のある日、少しひんやりとした工場の中から現れたのは、25歳の女性。「今は、お箸屋さんの店舗用什器をあさっての納期までに作るんです!」

平成19年4月から運田にあるT工芸で働き出したばかり、まだまだ見習い中。大学の建築工学科卒業後、住宅系内装専門会社に就職し設計を担当していたが、実際に作る仕事に就きたいと退職。

その後、家具工場アルバイト勤務するかたわら、訓練校木工工芸科に1年通学、約20社をめぐる就職活動ののち、現在のT工芸へ。家具職人のたまごとなる。



一から 十まで、親方から教えてもらえるのがいい。注文を受けてから材料選択、木取り加工、製作、納品まで、すべて親方に付いて学んでいる。お客様と直接話し様々な要望に対応できるのは、手作りならではのことで、既製品には出来ないオリジナリティで喜んでもらえるのがこの仕事の醍醐味。

小さい頃から「作る」ことが好き。自転車をわざわざ分解して組み立てたり。モノが違うものになっていく過程が面白い。趣味は旅行、スノーボード、今は自宅のフローリング貼りに夢中。

今後は、建築士の資格を取得し、お客さんとの折衝にも力を入れていきたい。

一人前 と認められるまで年季明け（見習い期間）まで5年、中でもカンナが一通り使えるまで2~3年はかかる。体力も必要、さらには予想外に起こる指の怪我など危険も多い。

親方いわく、「最初はこの男性の世界に若い女性を雇うことに戸惑いを感じたが、やるからには一生続け、本人らしいアイデアなどの斬新さを期待している。」

手作り家具職人を目指し「一歩」を踏み出したばかり。そんな彼女が語る自分らしさとは、「楽しく生きる」こと。



白岡のおともだち、大集合



—パパとあそぼうにおじゃましました—

自分で作ったものは格別!

家で子どもと一緒に料理するのはなかなか難しい・・・

もっと食べたかったな!

美味しかったよ!

NOV.10, 2007 はびすしらおか・調理実習室
「さつま汁とおにぎりとスイートポテトを作りました」



きらっと輝いて!

サークル人形劇あい

会長 ^{かんだ} ^{みこ} 神田 文子

私たち「あい」は、昭和55年に発足し、幼稚園・保育園・児童館・老人会等に呼んでいただき公演を重ねてきました。会員は現在14名、毎週金曜日(9時30分～12時)はびすしらおかのボランティアビューローで活動しています。公演がない時は、みんなで出し物を考えたり、人形を作ったりしています。また、公演が近づくと、動きやせりふまわし等を工夫しながらみんなで練習に励んでいます。会員の全員が仕事をしながらの活動ですが、みんなが集まると笑い声が絶えることがありません。この笑いと、公演に集まってくださった方々の笑顔こそが、私たちにとって何よりの活力になっています。会員の高齢化が進むなか、若い方々の仲間入りを心から願っています。是非一度活動日にお出かけください。お待ちしております。

問合せ先 社会福祉協議会 TEL92-1746

編 集 後 記

落 合 利 次

「ジェンダー・フリー」今では聞くこともなくなりました。最近「ダイバーシティ・マネジメント」を推進する企業で女性の力が重要視されています。「灯を絶やさない」努力や社会の潮流のなかに男女共同参画のゴールが見え隠れします。

鈴 木 園 江

2年の任期を終えホッとしているのと同時に、たくさんの素敵なお人に出会えたことに感謝しています。また、夫婦で編集に携わり、共感できたことは私にとっての大きな財産となりました。

石 井 久 美 子

それぞれの年代、段階で自分に合った充実した日々を送っている方々に出会い、その時々状況に応じ出来る限りのことを創意工夫により実現させる大切さを知りました。

鈴 木 多 美 子

長いと思っていた2年の任期ももう終り、2期(4年)もやっしまいました。ハープティを通して出会った方々、そして学んできたことはとても貴重なものとなりました。ありがとうございました。

鈴 木 水 弘

2年間の編集作業の中、いろんな人に出会えたことで、自分の住んでいるまちが一層好きになりました。皆さんから得られた「言葉」のパワーとエネルギーを吸収して、自分も頑張りたいと思います。

編 集 委 員：落合 利次 鈴木 園江 石井久美子
鈴木多美子 鈴木 水弘

表紙デザイン：鈴木 水弘



白岡町町民活動推進課
TEL 0480 (92) 1111 内線354
FAX 0480 (92) 9096
E-mail tyoukatsu@town.shiraoka.lg.jp

しらおか男女共生広報紙編集委員
ご意見、ご感想お待ちしております。



地球環境保護のため再生紙を使用しています。